

## 能力を育てる

2016, 11. 21 ~ 2017, 1, 4

認知能力・・・図れないもの

非認知能力・・・測れないもの、量れないもの

数字等で目にしやすいものを認知している。学力とかはそうである。

目に見えないもの。やる気、根気、元気などの活力（生きる力）、リーダー力などとするならば、もっともっと非認知能力を育てる必要があるのではないか。

本来ならば非認知能力は低年齢で育てる、あるいは育つものです。

とはいうものの完全に育っていないままに大人になっていく。実際に現在の大学進学の様子を見てみると、認知能力のみが重視されている感じがする。成長するにつれ非認知能力も育っていけばいいのだが、すべてそう上手くいかないのが現状であろう。その結果、認知能力のみ育ってくる。ここに、問題がある。

自分で目標に向かって進んでいくアスリートを考えて場合  
非認知能力を最大限に活用して考え物事に取り組む姿勢こそ  
子どもを大人へと、また、アスリートへと成長させていく能力なのである。

私は以前、三森ゆりか先生の講演を聞いたことがある。  
それは1枚の絵を見て自分なりに想像して、その場面を具体的にとらえる。というものであった。そういう具体化にすることによって心のもやもやしていたものが現実になっていき最後は、はっきり絵を見ることが出来る。作者の心を読み取ることが出来るようなことである。日本の教育ではやっていない教育であり、そこに日本人のメンタル面の強さが表れないことを話されたと私なりに理解している。このようなことも非認知能力が欠如しているから物事を正確にとらえることができないといえる。

学校の部活動を見てもいえる。近年、部活動入部者がだんだんと減ってきているようである。非認知能力を育てるには持ってこいの部活動がである。

いずれにせよ学力というのは、認知、非認知のどちらの能力も伸ばしていかなければならない。特に非認知能力ということをおぼえてはならない。